

## ジャガイモと映画 (13)

### <シチュー>

Web ジャガイモ博物館館長

あさ ま かず お  
浅間 和夫

#### 49 『ラ・マルセイエーズ』

(原題: La Marseillaise)

1938年、フランス映画。監督: シャン・ルノワール。

政治体制が絶対王政から立憲王政、そして共和制へと移り変わるフランス革命期の話。貴族たちは、市民によるバスティーユ牢獄襲撃を知り騒然となるものの、それが自分たちの今の生活を揺るがす革命にまで発展するとは想像できず、相変わらず舞踏会などに興じていた。しかし、1789年マルセイユ志願兵たちは、進軍歌を歌いながらパリに入り、王宮を取り囲む。この志願兵や民衆らを強い絆で繋いでいたのは本映画のタイトルであり、現フランス国歌の"ラ・マルセイエーズ"であった。

王宮のマリー・アントワネット (リーズ・ドラマル) らは、オーストリアやプロシアの力が自分たちを完璧に守ってくれると信じていた。民衆の数が増え、近衛兵の中にも革命派に加わるものが多くおり、やがて、王宮は民衆のものになってしまう。そこで、プロシアは、革命阻止のため大軍でパリへ攻め込む。しかし民衆たちは銃を手に取り、死を覚悟してそのプロシア軍の前へと進み、彼らはようやく自由を手に入れようとしていた…。

この古い映画のジャガイモの出るシーンは、作家金井美恵子さんによると、

『革命に参加するためにパリに上京したマルセイユ市民軍の宿舎では、大鍋で煮られたジャガイモと玉ネギのシチューが夕食に出され、寡婦である母親と婚約者をマルセイユに置いて革命義勇軍に参加した若い男が、またジャガイモか、ジャガイモにはうんざりだ、と文句をつけるのだが、同じマルセイユ義勇軍兵士の太った中年男で何事につけ物知りぶりを発揮する絵描きが、人の良さそうな丸々した顔を嬉しそうにほころばせながら、"ジャガイモをそう馬鹿にしたもうな"、と気取った口調で言う。』のであった (写真1)。



写真1 ジャガイモ・シチュー (イメージ)

## 50『彼女がその名を知らない鳥たち』

2017年、邦画。監督：白石和彌。

佐野陣治（阿部サダヲ）は貧相で、地位もお金もなく、集合住宅で身勝手な女十和子（蒼井優）と暮らしている（写真2）。十和子は、8年前に別れた黒崎（竹野内豊）を忘れられないでおり、夫の稼ぎに依存しながらも彼を嫌い、家庭のある別の男性とも関係を持っている。

その上、十和子はデパートの時計売り場で働く妻子ある水島（松坂桃李）とも関係を持ち、彼との情事に溺れていく。

そんなある日、十和子は家を訪ねてきた刑事から黒崎の行方不明を知らされる。夫がその件に関係しているのではないかと不安を抱き…。

この映画の舞台は大阪であるが、監督は1974年北海道の旭川市生まれである。ひょっとするとジャガイモが顔を見せるかもと、僅かに期待して観た。

出てきた！。陣治がシチューのためのジャガイモの皮を剥いている時に十和子が浮気に出かけようとするシーン。陣治はジャガイモを持ったまま追いかけていた。

映画のキャッチコピーは“最低の男と女がたどりつく“究極の愛”とは―”である



写真2 蒼井優と阿部サダヲ

が、ストーリーになかなか共感し難く、『破れ鍋に綴じ蓋』が似合いそうな男女の美醜を奇妙に包んだものであった。

## 51『恋するシェフの最強レシピ』

（英題：This Is Not What I Expected）

2017年、香港・中国映画。監督：デレク・ホイ。

ホテルのウェスタン・レストランの見習いシェフを務める29歳のグー・ションナン（チョウ・ドンユイ）は、ホテルのジェネラル・マネージャーと秘密の交際をしていた。しかし金融危機がホテルを襲い、ションナンはマネージャーと破局し同時に仕事も失ってしまう。この苦難の中、ションナンはホテルの後任経営者ルー・ジン（金城武）と出会う。

ジンは、ビジネスにも食事にも常にパーフェクトを求める高慢な男である。世界の味を知り尽くした“絶対味覚”を持つ彼にとって、このホテルの有名料理長が提供するメニューはどれも特に感動できるものではない。ひとり例外がいた。ションナンだけが自由な発想で斬新なレシピを編みだし、ジンの舌を満足させることに成功する。しかし、互いに顔をあわせることなく、ジンがテーマを決めて料理をオーダーすると、ションナンもプライドをかけて完璧な逸品を次々と編み出していく。（写真3には美味しそうなシチュー。ジャガイモのホールも見える）

その後、ジンはその人に会ってみたいと思い始める。だが“食”を通して心を通わせ始めた二人の前に、美貌と才能で勝るシェフ（リン・チーリン）が現れる…。

ロマンティック・コメディ映画と銘打っ



写真3 ホールポテトの見えるシチュー

ていたが、ドキドキするラブシーンは期待できなく、ヒロインは特に美しいわけでもない。しかし、食べた人の感謝の気持ちを受けて次の創作に精を出すキャッチボールのような関係がコミカルに描かれていた。

## 52『ブルックリン』（原題：Brooklyn）

2015年、アイルランド・イギリス・カナダ映画。監督：ジョン・クローリー。

時代は1951年、アイルランドの町で母、姉と暮らすエイリシュ（シアーシャ・ローナン）は年頃の娘(写真4右)。ミス・ケリーが営む食料品店に務めていた。そんな彼女に姉ローズはニューヨークで働く機会を用意してくれる。

大都会に来たものの、そこの生活でホー



写真4 エイリシュ（右）とアイルランドの家庭料理

ムシクになる。そのとき、フラッド神父や寮母のキーオ夫人等、自らと同じようにアイルランドから遠くやってきていた同郷の人びとが背中を押してくれたり、手を差し伸べてくれたりする。

彼らとテーブルを囲んで食べるアイルランド料理は、小さい頃からずっと食べてきた味であり、とても懐かしい。ジャガイモそのものやジャガイモの入ったアイリッシュ・シチュー、ブラッドソーセージ（血液の腸詰料理）、そして無発酵の重曹で膨らませたパンなどがテーブルに揃うと心は休まる。

その上、神父は彼女に大学の会計士コースの受講を薦める。それに従う彼女は少しずつ自信を取り戻し、容貌に華やかさを表すようになっていく。そして、イタリア系の青年トニーとダンスパーティーで出会い、恋に落ち、純粋に未来を夢見る。しかし姉が病気で亡くなる。一人故郷に残された母親を思い、1ヶ月だけアイルランドに帰ることにする。そのためトニーは、プロポーズを急ぎ、二人はめでたく結婚する。

急遽帰郷した彼女は、そこで昔馴染みの青年ジムと再会し、立派な紳士となったジムへと心が揺れていく。かつての雇い主であったミス・ケリーによって彼女が既婚者だという秘密が暴かれ、帰る故郷が無くなる。しかし、トニーはニューヨークで、妻の帰還を待ちわびていた。彼はある日、通りの向こうに愛する女が立ち、微笑みかける姿を見るのだった…。

映画のタイトル意味は『こんなはずじゃなかった!』、キャッチフレーズは、『故郷も愛も二つは持てないのか』であった。